

# 第13回 みたけ創生有識者会議 書面報告

令和3年9月 御嵩町役場企画課  
(みたけ創生有識者会議事務局)

第13回みたけ創生有識者会議は、令和3年8月25日に御嵩町役場にて行う予定でしたが、コロナ禍のため、書面での開催に変更とさせていただきます。事務局からの連絡事項・報告事項及び議事に対する委員意見等についてまとめましたので、本書にて書面報告いたします。

## ◆連絡事項

### ○ 委員の委嘱・交代について

今回から新しい任期となります。本来なら委嘱書を町長から直接交付させていただくところですが、書面開催に伴い郵送での交付とさせていただきますので、ご了承ください。

座長・副座長につきましては、前回に引き続き、座長に小林智尚様、副座長に水内智英様にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

人事異動等により、一部の委員が交代となっております。なお、委員名簿は会議書類にてご確認ください。

### ○ 事務局の交代について

令和3年4月1日を以て人事異動があり、事務局が次のとおり変更となりました。

総務部長	<u>各務 元規</u>	企画調整担当参事	中井 雄一郎
企画課長	山田 敏寛	企画調整係長	丹羽 英仁
企画調整係員	<u>板屋 沙織</u>		

※下線の職員が新任となります。

## ◆議事

### (1) 令和2年度実施分の地方創生推進交付金事業の効果検証および令和3年度実施分の地方創生推進交付金事業の展開について

地方創生推進交付金事業のうち、「みたけ人」の人材育成を核とした御嵩の魅力情報発信促進事業」を中心に、令和2年度事業の効果と令和3年度事業の展開についてご意見をいただき、事業ごとに座長に総括していただきました。なお、ご意見等については、語尾の体裁を整える等の修正を行っておりますのでご了承ください。

#### 1. 「みたけ人」の人材育成を核とした御嵩の魅力情報発信促進事業

##### ○No.1 みたけ創生みらいの人材育成協議会等運営事業

委員意見	※意見なし
事務局より	コロナ禍により書面開催などで会議運営を補いました。本来の形で行いたかったですが、文面に残すことで課題や情報の共有の度合いを高められるなど、一長一短ではあるものの、別側面で効果を出すこともできています。今後は、感染症対策を万全に整え、対面で行うことを基本としたいと考えています。
座長総括	コロナ禍のために活動が制限されたが、書面開催や講演実施などの工夫が見られた。活発な情報交換が必要な協議会なので、可能であれば対面での開催を期待する。

##### ○No.2 ITプログラミング人材育成事業

委員意見	<p>・アプリの開発を主としての活動は参加者のIT人材の育成としては意味が感じられる。次のステップとして大切になってくることは、現状、御嵩町が抱えている諸問題をIoT、AI等を活用してどのように解決していくかを自らが考えた上で、アプリの開発へと繋げていく段階ではないかと思う。参加者が開発したアプリが我が町をよくしたという体験は、今後御嵩町にとっての人材を創出する上で、非常に重要なことだと思う。(齊藤委員)</p> <p>・これからの若者に必要な知識でいい取り組み。全生徒に展開してほしい事業。IT企業を御嵩町に誘致するのもいい。コロナ禍で、地方にオフィスを構えたい企業を誘致できるといい。(尾石委員)</p> <p>・公開されたアプリを実際にダウンロードし使用してみた。それぞれに高校</p>
------	--

	<p>生の意欲が感じられた。こうした事業は成果物以上に、学びのプロセスが大切かと思う。コロナ禍のなかでもIT企業訪問やアイデアソンの実施など体験を担保できたことは貴重な成果だと感じた。(水内委員)</p> <p>・アプリ開発の取り組みは興味深い、利用者を増やし、より効果を上げるため、開発したアプリのPRの強化が必要。(恩田委員)</p>
事務局より	<p>・地域の方々に支えられ、学生たちは日々を過ごしていますが、このアプリケーション開発を通じて同じことが言えると思っています。学生たちが何気なく利用している、通学している中には歴史や文化を残してきた先人たちの努力や思いが詰まっていることを、アプリケーション開発と言う形でふるさと教育に繋げることが出来ていると確信しています。</p> <p>・また、このプログラミングというものが仕事として定着している反面、就職先を見つけにくい状況にあります。ハローワーク等で出されている求人にはあまりプログラマーと明確に募集しているものは少なく、勉強会などで声を掛けてもらってプログラマーとして採用されるなど、我々が思っている以上に特異な業界でもあることはここ数年で分かってきました。これらの糸口を少しでも提供できるよう運営側としても努力して参ります。</p> <p>・開発済みのアプリケーションについては、域内では広報誌などでも紹介したほか、受託者による県外での講義の際にもPRをお願いしており、配信元の会社が展開しているサイトでも外部から評価をいただいています。これらの評価を参考に今後も広まるよう努力して参ります。</p>
座長総括	<p>アプリ開発は参加型の活動であり、高校生などにとっては学びの面でも大変有効と感じられる。またコロナ禍の中でもIT産業は有望な分野であり、みただけの魅力発信を目的とした開発アプリのPRのほか、地方にオフィスを構えたい企業や個人に対してもこの取り組み事態をPRしてもよいかと思う。人材としてはIT技術プラス1が求められることが多いので、アプリ作成の技術習得のほか、現在の問題やニーズを見据えてアプリを企画できる能力の習得も必要になってくると思われる。</p>

### ○No.3 体験型キャリア教育事業

委員意見	<p>・プログラミング講座やキャリア教育等、人材育成に向けた取り組みは素晴らしいと思う。今後も、御嵩町の未来ある子どもたちを、町をあげて応援していきたい。ただ、育った優秀な人材は県外、海外に向けてはばたいていくのではないかと。優秀な人材に、活動拠点の選択肢の一つとして御嵩を選んでもらえるようにするためには？ということセットで創造した方がよいと感じた。(奥村委員)</p>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校OBの参加による事業の活性化についてとても良いことだと思う。リモート向けへのプログラム対応をされたことも高く評価したい。(羽田野委員)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況を考えると、非常に難しい状況だと推察されるが、今後、可能な限りで現場での情熱が感じられるような機会をより多く、そして多様に提供していくことが大切ではないかと思う。(齊藤委員)</li> <li>・もっと多くの地元企業が参加して、地元企業に就職する学生が増えるといい。2~3分程度の簡単な、会社紹介の映像が最初にあると、学生も理解しやすい。(尾石委員)</li> <li>・年度を重ねるごとに事業が発展的に充実しており、コロナ禍であっても積極的にオンラインを使用し、企業・大学生・高校生を繋ぐといった新しい試みを行うなどの成果は評価できると感じた。次年度以降のオンラインの活用については参加した生徒や企業からの意見も参考になると感じるので、参加者の声を大切に検証をすすめていくべき。(水内委員)</li> <li>・高校生の就職には、親の意見が大きく影響するので、本人に対してだけでなく、親に対する啓発、PRも併せて行うとさらに効果が上がると思う。(恩田委員)</li> </ul>
事務局より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の4月の就職状況として、約半数の生徒が就職しました。就職者の9割は近隣での就職でした。その中でも町内に就職した生徒は全15名(前年度8名)と倍増いたしました。特に卒業生を多く雇用していただいている町内企業にはその内10名が就職し、現在も頑張って働いているとのこと。OBの声は非常に心に響くようで、会社選びにも大きな影響力をもたらすことが今年の就職先のリストからも伺えました。</li> <li>・高校側と意見を取り交わしましたが、やはり対面での形式が最も効果を生むとの声もいただいております。この新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みますと、企業も学校も、そして行政も躊躇することばかりです。2年生に対しては企業PR展を実施し、OBが参加した企業への話の聞き入り様は他と比べ物にならないくらい前のめりの姿勢で聞いていました。可能な限り1年生の生徒には現場の生の声を届けたいとして苦肉の策でオンラインでの開催となりましたが、やはり対面に勝る手法はありません。今後の状況を見極め、学校側と協議の上展開を検討してまいります。</li> <li>・保護者の状況については求めるべき姿として、このプログラムに親も参加出来たら一番良いですが、状況をお聞きしている中では共働きや家庭の事情による学校訪問が困難な家庭が多いともお聞きしています。このような中では一緒に参加できずとも企業の情報が保護者に届くよう学校とも連携して</li> </ul>

	<p>手法を検討していく必要があると考えております。</p> <p>・参考にですが、協力いただいた企業の担当者様から、外国籍の生徒を雇用するようになり、接し方や指導方法について情報や体験談を共有したいとの声から企業同士の意見交換を展開いただいているとの情報が入ってきています。相互理解のため企業の方々も外国籍の従業員に対する理解度を深めるため日々努力されていることに感謝し、外国籍の生徒の進路の幅が広がるよう、当町まちづくり課と協力しながら事業展開して参ります。</p>
座長総括	<p>この取り組みは高校生が知らない地元企業の魅力を伝える事業で非常に価値があると感じる。さらに高校 0B の参加やフォローアップなど事業の魅力や効果を引き上げる工夫が見られ、優秀な高校生も町に残って活躍してくれるのではと期待している。コロナ禍のために、web 開催となったが、継続することが重要であり、できれば現地開催、できなければ web 開催でつないでいって欲しい。企業様の了解が必要であるが、保護者には web 開催の様子をオフラインで見学できるようにする方法もあるかと思われる。</p>

#### ○No.4 外部人材招聘事業

委員意見	<p>・御嵩町にゆかりがある人物とはいえ、なぜ可児才蔵を選んだのか？町民たちに愛着のある人物？町をあげてPRする、可児才蔵にかける想いや、そこに至ったストーリーが薄いように感じる。(奥村委員)</p> <p>・コロナ禍で、町外からの人材招聘が難しくなった今、町民の語り手を募るのも良いと思う。御嵩町発行「じいさまから聞いた話」の本は、町内の神話や、民話、昔話がもりこまれている。私は、この本を初めて手にした時とてもわくわくした。子どもたちにも日ごろから読み聞かせているもの。自分たちの住む、土地、自然、文化に、このような言い伝えや、神話、民話がある事。まずは、町内の小学校へのお母さんたちの読み聞かせを通して町民に浸透させ、そこから観光につなげていくのもよいと思う。まずは、住んでいる私たちが、地元を知って、この土地に興味を持ち、愛着を持っていけるような働きかけをしてみてもどうか。(奥村委員)</p> <p>・興味深い事業が展開されようとしているので、感染対策と並行する形で、出来る限り事業が継続できるようにしていけば、よりよい効果が期待できるのではないかと思う。(齊藤委員)</p> <p>・特に外部人材の招聘は、コロナ禍の影響を受けやすいが、同時にオンラインであれば遠方の県外や海外からの外部人材の講演も計画しやすいとも考えられる。また、普段は忙しさや様々な事情から参加が難しい町民の方々(例えば小さな子どもを育てる女性など)もオンラインでなら参加できることも</p>
------	---

	考えられ、参加者の裾野を広げることにも繋げられるのではないか。(水内委員)
事務局より	大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした、武将観光への機運の高まりにより、御嵩町出身といわれる「可児才蔵」に焦点をあてて継続して展開しています。町民から語り手を募る形も含め、今後も「可児才蔵」を町独自の歴史文化資源ととらえ、魅力発信事業に取り組んでまいります。
座長総括	コロナ禍のために現地での開催ができず、活動を縮小したのは致し方ない。読み聞かせは特に幼児には効果的であり、町の昔話などを読み聞かせると子供たちは町への興味と愛着を持つのではないかと期待できる。そのため、外部だけでなく町内の語り手を募ったり、会場に来られない家庭にオンライン配信するような取り組みも有効であろう。

#### ○No.5 みたけのええもんを媒体としたシティプロモーション事業

委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の方に、みたけのええもん、たからもんを身近に感じて、手に取ってもらえる場がない。実物を良いモノ、宝モノとして扱い展示してもらえないと、新たな挑戦がうまれないのでは？ええもんを増やしていくことより、育てることに重点を置いて取り組んでもよいのではないか。(奥村委員)</li> <li>・販路拡大を目指し活動してきた結果が出ているのではないかと思う。新型コロナウイルス感染症の状況が改善した際に向けて、より計画性を持って、御嵩町のよさをプロモーションしていくことを期待する。(齊藤委員)</li> <li>・5つの事業の中で一番、集客が期待できるし、他業種とコラボができる。柔軟な発想で、販路拡大を期待する。(尾石委員)</li> <li>・コロナ禍のなか、プロモーションの軸が対面販売からオンライン販売へと移行していると思う。そうした社会の動きに反応し、楽天通販サイトでの販売を開始できたことは積極的な取り組みとして評価できるのではないか。今後も可能な限りネットでの販路を模索すべき。そのうえで次年度計画にあるオンラインでの販路拡大のためのサイト構築はその後押しとなると感じる。(水内委員)</li> <li>・「たからもん」の新設は、今後の広がりにも期待できる。「ええもん」とのコラボレーションの可能性など、相乗的なプロモーションの展開も考えられる。(水内委員)</li> </ul>
事務局より	物販時のアンケートからも、認知度が向上している手ごたえを感じており、御嶽宿わいわい館で、みたけのええもんの一部を購入できるようにしています。ええもんをまとめて紹介したサイトの作成を行うとともに、今後も

	インターネット販売のサポートを行ってまいります。
座長総括	これまでの他地域での物産展参加に加え、町内での販売やオンライン販売と販路拡大、売り上げ増を果たしている。コロナ禍での売り上げ増はすごいこと。町内での販売では町民への街の魅力の再認識につながったと思われる。またオンライン販売では大きな手ごたえが得られている。引き続き販売の拡大に努めて頂き、町の魅力発信にさらに貢献して頂きたい。

## ○No.6 循環型エネルギー学習事業

委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前授業で学習の機会を確保したことは評価できる。今後、リモートで予定していた北海道下川町の方と交流できるような機会を設け、現地の方や小中学校との学びの交流が促進できるような工夫を期待する。(齊藤委員)</li> <li>・ 特別事業でエネルギーの事を学習するのではなく、ゆくゆくは日々の授業の中で、さりげなく循環型エネルギー学習ができるといい。(尾石委員)</li> <li>・ 北海道下川町でのプロジェクトを中止せざるを得なかったことは残念だが、活動を止めずに講座が展開されたことは評価できる。次年度もコロナ禍の影響が残るとすれば、本事業でもオンラインの積極的な活用が検討できないか。例えば、下川町と御嵩町をオンラインで繋ぎ交流を行う、海外や県外講師によるオンライン講座を行うなど、オンラインならではの積極的な施策も検討できるのでは。K P I (環境学習講座の参加人数) 達成を直接の目的とするわけではないが、オンラインを活用することで参加人数を確保することにもつながるのでは。(水内委員)</li> <li>・ コロナ禍であっても参加できるリモート型のツアーや体験学習等ができるとうい。(恩田委員)</li> </ul>
事務局より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインでの事業展開も検討しましたが、御嵩町役場でのオンライン講座を実施できる場所等の制約や、子どもたちにとって魅力的なオンライン講座を用意できるかどうかなどを考えたうえで断念しました。</li> <li>・ 現在は、北海道下川町派遣の代替事業として、全世代を対象とし、生の自然体験や楽しさなどを重視した環境教育講座を計画中です(添付資料あり)。循環型エネルギーが必要な背景にある地球温暖化の問題に少し遠回りでアプローチする内容となっています。</li> <li>・ コロナ禍であっても、まん延防止等の指定がない限り開催できるよう、県外移動を伴わない屋外形式の講座で検討しており、K P Iは4つの講座で合計90名前後の参加を見込んでいます。</li> </ul>

座長総括	<p>コロナ禍のために北海道下川町派遣事業が中止になったことは残念である。事務局ではオンラインでの事業展開を検討しているが、交流だけではなく、リモート型のツアーなど、より広い視点でのオンライン活用を検討して頂きたい。今の若者世代、子供世代は学校の授業などで省エネを学んでおり、生活スタイルも一昔より省エネとなっている。そのためここでは、現在の環境モデル都市の取り組みなど、「町の特徴ある省エネ」を伝えることが良いと思う。また体験学習も企画されており、その効果を期待している。</p>
------	---

## 2. 武将と歴史街道を核とした広域観光推進プロジェクト

委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大河ドラマを活用した取り組みは大いに効果が期待できたが、この新型コロナウイルス感染症の難しい状況下では、効果が限定的になってしまったのではないかと推察される。今後、この活動をどう次に繋げていくかが今後の課題となっていくのではないかとと思う。(齊藤委員)</li> <li>・今年度に認知度が向上したと思われる地域の歴史的資源を、コロナ禍以後に観光需要が回復することを念頭に、今後も積極的に活用していくことが必要ではないかと考える。とりわけ、他市町との連携をしながら相乗的な観光推進は今後も効果的ではないか。(水内委員)</li> </ul>
事務局より	<p>武将と歴史街道のキーワードでは継続して歴史資源の磨き上げを行っていますが、「可児才蔵」については町主催で紹介していただくだけでなく、その生涯やエピソードについて語れる人材「語り部」育成に力を入れる予定です。中山道についても引き続き他市町村と連携して事業を進めていきます。</p>
座長総括	<p>コロナ禍のために大河ドラマの効果は限定的になってしまい、またその効果も持続的ではなかったことは残念である。広域観光プロジェクトとしては「可児才蔵」に限定せず、他市町の武将とも組み合わせ、その市町との連携をしながら相乗的效果を期待してもよいと思う。</p>

## 3. 「わくわく地方生活実現政策パッケージ」における移住支援事業

委員意見	<p>・リニア新幹線の開業に伴い、現在の生活スタイルが変わっていくことが考えられるので、そこに合わせて、岐阜県全域で広域的に交通網を再考し、さらに各地域で特色を生かし、移住をしたいという考える人が増えるように計画的に考えていくことで、少しずつ結果が伴っていくのではないかと考える。新型コロナウイルス感染症によりリモートワークがより加速すれば、大都市圏まで通勤可能な範囲に人が移住することは考えられるので、先を見通した計画立案を期待する。御嵩町で住むことで得られる付加価値をより明確</p>
------	--

	<p>にし、なおかつ通勤可能という状況をいかに生み出すかが、今後の事業の成否の鍵を握るのではないか。(齊藤委員)</p> <p>・岐阜県との事業かと思うので一概には言えないが、令和元年度に比べ、補助事業の話題性は低くなっているように感じる。再度、制度の認知度向上へ向けた取り組みが必要であると思う。一方で、地方移住や地方企業はリモートワークの普及などにより関心が高い社会状況があると思うので、今年度以降の取り組みが更に重要となってくるのではないか。(水内委員)</p>
事務局より	<p>・オンラインでの移住相談会に参加し、当町以外の相談も相談者の承諾をいただいたうえで聞かせていただきました。その中では、関東近郊（茨城県や静岡県）への移住は検討の範囲にあるが、全く知らない土地（関東近郊以外）への移住を検討するには至っていないなどの声を聞いています。全国的な移住ブームが一旦落ち着きを見せつつあるだけでなく、コロナが引き起こした行動制限により「試しに一度行ってみようかな」という思考にもブレーキをかけていることも要因の一つと考えます。</p> <p>・周辺自治体とも電話で話をしますが、空き家バンクを利用した移住も近隣自治体からの住み替えがほとんどで、遠方からの移住は殆ど耳にしません。現在の状況が好転した際を見据えて準備、展開に備えてまいります。</p>
座長総括	<p>コロナ禍によるリモートワークに伴う移住も落ち着きを見せているが、この事業は短期の成果を求めるのではなく、長期間継続して成果を出す事業である。重要な取り組みでありこれからも継続して取り組んでほしい。岐阜県の中でも御嵩町は道路・鉄道の交通網では比較的有利な位置にあると感じている。しかし岐阜県や御嵩町の知名度があまり高くないことがマイナスと感じている。「みたけのええもん」や武将観光事業など他の事業と関連してアピールの場を見つけてはどうか。また日本のリモートワークは完全なリモートではなく、例えば1週間に1度などある程度の出社を伴うリモートであるので、名古屋などある程度近隣の大都市に通勤している人を対象とすることになると思われる。対象の検討も行ってはどうか。さらに近隣だけではなく、リモートワークによる移住を成功させている市町への調査も行ってはどうか。</p>

## (2)交付金事業のK P Iについて

地方創生推進交付金事業および地方創生加速化交付金事業にて設定したK P I ごとに、委員の皆さまにご意見をいただきました。なお、平成 28 年度に実施した地方創生加速化交付金事業については、事業終了後 5 年間の経過検証が必要とされており、今回の検証が最終となります。

### <地方創生推進交付金事業>

委員意見	
	<p>K P I ① 御嶽宿わいわい館の年間売上高</p> <p>K P I ② 御嶽宿わいわい館の入館者数</p> <p>・コロナ禍であってもK P I ①（御嶽宿わいわい館の年間売上高）が市民活動団体との協働により回復したことは大きく評価できる一方で、K P I ②（御嶽宿わいわい館の入館者数）がそれに連動して数値が上がらなかったのはなぜか。K P I ①とK P I ②が連動する仕組みを考えることもできるのでは。（水内委員）</p>
	<p>K P I ④ 工業団地における町内居住従業員率</p> <p>・コロナ禍でイベント等の参加（入館）人数が計画を下回ったことはやむを得ないと思うが、当該K P Iは継続的な取組を見直す必要があるのでは。（羽田野委員）</p>
事務局より	<p>・御嶽宿わいわい館は、新型コロナウイルス感染症の影響により約2か月間閉館するとともに、その後の来館者数も大きく影響を受けました。可児才蔵武功伝承館の開設中は前年度よりも入館者数も見られ、一定の効果があったと考えています。</p> <p>・「工業団地における町内居住従業員率」にあっては、海外工場の閉鎖などコロナ禍における外的要因により海外生産ラインが停止または停滞していることから、国内生産に切り替えざるを得なくなった業種が多々あります。新規雇用を生むことが出来れば一番良いですが、当町は高速道路アクセスも良いためか、即時対応となると本社からの応援や出向などにより町内と町外の割合が変化していることが要因と考えられます。</p>
座長総括	<p>コロナ禍のために人の移動を伴う事業の指標、K P I ②、④の大幅な低下はやむを得ないと感じる。それにもかかわらず、K P I ①の御嶽宿わいわい館の売上向上は特筆すべきことである。物販の伸びによる効果が大きいですが、取り組みとその成果を具体的に検討し、ネット販売とともに今後さらに伸ばして頂きたい。これによって、町内外での町のアピールも進むと期待している。</p>

<地方創生加速化交付金事業>

委員意見	
K P I	<p>地域連携・ICTを活用して企画・開発・販売した物産品等の年間売上高</p> <p>・コロナ禍でのイベント出店やPRができなかったにも関わらず、売り上げを維持できた理由のひとつに、リピーターが根付いてきたことが挙げられていることは注目に値する。今後のPRの方法として、一度購買してくれた方のリピーターの増加に直接的に働きかけることもできると考える。(水内委員)</p>
K P I	<p>観光入込客数</p> <p>・コロナ禍の影響を受けやすい観光事業であるため、数値減は理解できる。一方で、影響は次年度も続く可能性も考えると、近隣や地域内観光需要の掘り起こし、オンラインを活用したバーチャルツアーなど積極的な施策も検討すべきではないか。(水内委員)</p>
事務局より	<p>・物販時のアンケート結果からも、リピーターが根付いてきていることが分かっています。今後インターネット販売等の支援にも力を入れていく予定です。</p> <p>・リモート観光ツアーについては令和3年度当初予算として予算化しており、まちづくり課所管で現在制作に取り掛かっております。皆様にご披露できる機会をつくれないうかが協議して参ります。</p>
座長総括	<p>コロナ禍でイベント出店ができなかったにもかかわらず物産等の売上が大きく伸びていることは、ネット販売の取り組みが本当にうまく回っていることを示している。さらにリピーターが根付いていることは、町の物産に魅力と価値があることを表している。今後はリピーターを増やし、リピーターによるPR効果も期待できるようにネット通販に力を入れて頂きたい。またコロナ禍が解決した暁には町に直接足を運んでもらえるように、リピーターには早めに町の観光PRも進めて頂きたい。</p>

< K P I 全体 >

委員意見	
<p>K P I 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況から適切な評価ができるような状況ではないと考えるが、この状況下では概ね良好な結果が出ているのではないかと思う。ただ、今後の状況が改善した後にも繋がるように、できることは継続実施、難しい事は代替実施できるような工夫が必要だと思う。現状、何ができて、何ができないのか明確に示すことは難しいと思うが、御嵩町としての基準を明確にし、それに基づいて活動内容を再考していくことが重要になってくると思う。(齊藤委員)</li> <li>・コロナによる「異常値」を一目でわかるようにするといい。「異常値」をどう考えるかも合わせて、明記するといい。(尾石委員)</li> </ul>	
事務局より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による数値結果は地方創生事業に関わらず、次年度の税収予測などを含め他の分野にも相当な影響をもたらしております。</li> <li>・感染症対策は万全を期し、緊急事態宣言等の規制が設けられない限り可能な範囲での催しや講座展開などは御嵩町役場一丸となって試行錯誤しながら行ってまいりたいと思います。頂きましたご意見につきましては、御嵩町新型コロナウイルス感染症対策本部にも共有させていただきます。</li> </ul>
座長総括	<p>コロナ禍の影響が大きく適切な評価ができるような状況ではない。ただし K P I が良好な事業、影響を限定的に抑えている事業が見受けられ、コロナ禍でも概ね良好な結果が出ていると思われる。各事業へのコロナ禍の影響（異常値）を可能であれば定量的に評価できれば、事業進捗の理解が進むと思われる。またコロナ禍の今後が見通せないのも、今後はコロナ禍継続時と終了時の両方を見据えて計画を継続・見直す必要がある。またオンライン販売やバーチャル体験などコロナ禍で新たに出た取り組み・アイデアも新たに検討する価値がある。</p>

### (3) みたけ創生!!総合戦略（第2期）のK P Iについて

みたけ創生!!総合戦略（第2期）にて設定したK P Iごとに、委員の皆さまにご意見をいただきました。

委員意見	
K P I レンタサイクル利用者数	<ul style="list-style-type: none"><li>・2020 年度実績値が落ち込んでいる理由としては、コロナ禍による観光客の減少が考えられるが、「エネルギーの需要と循環利用」のためのレンタサイクル活用と捉えると、レンタサイクルを観光客だけではなく町民が恒常的に利用できるような利用想定とそのための仕組みが必要ではないか。（水内委員）</li></ul>
K P I 全体	<ul style="list-style-type: none"><li>・2024 年度の目標値の実現は現在の状況では難しいものもあるが、前述の（2）と同様に先を見越した柔軟な施策を期待する。（齊藤委員）</li><li>・基準値より実績値が下がっているものの、目標値が上がっているK P Iがあるが、なぜ下がったかの原因分析がなく、それに対する具体的な改善策が明記されていないのに、目標値が基準値より上がっていても、信憑性に乏しい。（尾石委員）</li></ul>
事務局より	<ul style="list-style-type: none"><li>・レンタサイクルは、すでに町民が買い物への交通手段として使用しているケースが目立ってきています。バスや電車のように、町民が恒常的に利用できる安心・安全な仕組みを検討してまいります。</li><li>・中長期目線でのK P Iや年度ごとのK P I設定など様々となっております。コロナ禍による影響以外も考えられるとは思いますが、それがコロナによるものとして埋もれて良い訳がありませんので、明確な要因を示すことが出来るよう創意工夫して参ります。</li></ul>
座長総括	<p>コロナ禍のために人の移動を伴う事業の指標低下は致し方ない。その中でレンタサイクルは有料化による影響もある。現在は観光客がおらずまた有料であるため、現在のユーザーは町内の固定ユーザーとも想像できる。このようなユーザーを汲み上げ、恒常的な事業として町内サービスにつなげてほしい。またコロナ禍でも、空き家バンク登録件数の成約数など目標値を超えた指標や、子育て環境や支援への満足度など影響を最小限にとどめた指標もみられ、大変な工夫・努力を感じる。これらの工夫・努力を整理・共有して今後につなげて頂きたい。</p>